

## 積極的な恋を望むなら、男性に相談すべし

著者名(日)	加藤 司
雑誌名	東洋大学社会学部紀要
巻	48
号	1
ページ	5-10
発行年	2010-12
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1060/00003096/">http://id.nii.ac.jp/1060/00003096/</a>

## 積極的な恋を望むなら、男性に相談すべし

If you wish to be aggressive about love,  
why don't you consult a male ?

加藤 司  
Tsukasa KATO

【要約】本研究の目的は、恋愛相談反応尺度を作成し、恋愛相談反応に性差が見られるかどうか検証することである。まず、大学生58名から自由記述法によって、恋愛相談反応項目379項目を得、63項目に集約した。次に、183名を対象に、これらの項目を因子分析した結果、「別れさせ行動」「シカト行動」「相談者尊重行動」「後押し行動」の4つの因子を得ることができた。女性より男性の方が、「後押し行動」(相談者の積極的な行動を後押しするような行動)の使用頻度が高いことがわかった。

【キーワード】恋愛、恋愛相談、恋愛相談反応

われわれは、恋愛が最も重要な事柄のひとつであることを経験的に知っている。しかし、何の問題もなく、順調な恋愛経験をする者ばかりではない。そこで、恋愛について他者に相談をするという「恋愛相談行動」が生まれる。例えば、インターネットの「教えて! Goo」の「恋愛相談」部門では、2010年5月18日現在23万5千件以上の相談が寄せられている(OKWave, 2010a)。また、「恋愛相談室LOVE CAFE」(2001)、「ももカフェ恋愛相談室」(momocafe, 1999)、「恋愛相談駆け込み寺」(恋愛カウンセラー, n.d.)、「恋愛掲示板Rapli」(MTrading, 2009)、「みんなの恋愛相談」(OKNAUTS, 2006)、「デート通jpみんなで書き込むデート・恋愛のクチコミサイト」(Control plus, 2005)、「Love is philosophy恋愛相談恋の悩み相談室」(fai, n.d.)など、恋愛に関する相談の書き込みをするホームページが、インターネット上には無数に開設されている。加えて、これらの恋愛相談に対する反応は非常に活発である。例えば、読売新聞社(n.d.)が主催している「大手小町」内の「発現小町」「男女」部門の「それでも私の彼女かァ!!」という恋愛相談には、470件を超える返信が寄せられている(2010年5月18日現在)。また、「教えて! Goo」の「恋愛相談」の「彼女にこんなお願いをされたらどう思いますか?」(OKWave, 2010b)の恋愛相談には、200件以上の返信が書き込まれている(2010年5月18日現在)。このように、ひとりの恋愛相談に対して、数百件以上の返信があることは珍しいことではない。また、このような恋愛相談とその相談に対する助言などの書き込みは、数千件を超えるアクセスが記録されている。すなわち、世間一般では、「恋愛相談に対する反応」が行われ、そのような行動に、多くの関心が寄せられているということである。しかし、研究レベルでは、恋愛相談行動やそのような行動に対する反応行動に関する研究は進展していない。

研究の対象を「恋愛」に制限しなければ、「相談行動」に関する研究は盛んに行われている。例えば、ストレス研究では、相談行動はサポート希求(seeking social support)と呼ばれ、ストレスフル

な状況に対するコーピング方略のひとつとして知られている(加藤, 2008)。また、社会心理学では、相談行動は援助要請 (help-seeking behavior) と呼ばれ、援助行動に関する研究領域で研究がなされている。しかし、恋愛に焦点を当てた相談行動の研究はみられない。例えば、国立情報学研究所が運営をしている論文情報ナビゲータCiniiを用いた論文検索では、「サポート希求」をキーワードに検索すると11件の論文がヒットし、「援助要請」では121件の論文がヒットし、「援助希求」では7件の論文がヒットしたが、いずれも「恋愛相談行動」に焦点を当てた研究ではなかった(2010年5月18日現在)。恋愛相談行動に関する研究ですら進展していない現状の中、「恋愛相談に対する反応」の研究になると、現状では皆無とっていい。

以上のことから、本研究では「恋愛相談に対する反応」(以降、恋愛相談反応とよぶ)の研究を行う。そのために、まず、恋愛相談反応にはどのような反応があるのか、その反応について調査する。

## 方 法

### 被調査者と手続き

被調査者は、男子大学生56名、女子女性120名、不明7名、計183名であり、平均年齢20.21歳(標準偏差1.22)、年齢の範囲18歳から26歳、第一学年30名、第二学年89名、第三学年45名、第四学年19名であった。被調査者は、事前に質問項目の説明を受け、同意したのち、恋愛相談に関する項目および性役割に関する項目に回答した。

### 質問紙

#### 恋愛相談対応に関する項目

恋愛相談反応を調査するために、以下の手続きによって作成された63項目を用いた。まず、大学生58名(男性18名、女性40名、平均年齢20.57歳、標準偏差1.56)を対象に、自由記述による質問紙調査を実施した。「最近受けた友人からの恋愛相談を思い浮かべてください。どのような相談でしたか? その相談に対して、あなたはどのように答えましたか? 書ける範囲でいいので、できるだけ、詳しく書いてください」という指示に対して、「相談内容」および「相談に対する回答」について別々に回答させた。次に、「相談に対する回答」を対象に、質問に対する回答になっている文章だけを抽出した。その結果、379文の回答を得ることができた。この379文の回答について、類似した内容を集約すると、246項目が抽出できた。そして、再度集約を検討したのち、項目の表現内容を統一させた。その結果、本研究で用いた63項目を得ることができた。

このような手続きによって得た63項目に対して、実際に友人から受けた恋愛相談に対する対応の仕方として、「よくあてはまる」「あてはまる」「少しあてはまる」「あてはまらない」の4件法によって、評定させた。得点は0点から3点とし、得点が高いほど、そのような対応を行ったとした。

#### 性役割に関する項目

Bem Sex Role Inventory (Bem, 1974)のうち、男性性に関する20項目、女性性に関する20項目を用いた。本尺度の日本語版は東(1990, 1991)によって、信頼性と妥当性が検証されている。本研究では、「よくあてはまる」「あてはまる」「少しあてはまる」「あてはまらない」の4件法によって、データを収集し、得点が高いほど、該当する性役割観が高いとした。

## 結 果

## 恋愛相談反応の因子構造

恋愛相談反応の因子構造を検証するために、恋愛相談反応63項目を用いて、共通性を1.0とした因子分析を行い、因子の減退状況などから4因子解を仮定した。そして、再び、因子分析（反復主因子法、プロマックス回転）を行った。因子負荷量が0.35以下の項目、他の因子への負荷量が0.30以上の項目を取り除き、因子分析を繰り返した。最後に、解釈できない項目を取り除いた結果がTable 1である。第一因子は「付き合うべきではないと言ってとめた」「相手を忘れるようにと言った」など、5項目に高い負荷を示し、「別れさせ行動」因子と名づけた。第二因子は「何も言わなかった」「特に何もせず、ほっておいた」など、5項目に高い因子負荷を示し、「シカト行動」因子と名づけた。第三因子は「いつでも相談にのると言った」「相談者の気持ちを確かさせた」など、5項目に高い負荷を示し、「相談者尊重行動」因子と名づけた。第四因子は「相手のことをもっと受け入れるように言った」「相手のアピールに答えるようにと言った」など、4項目に高い負荷を示し、「後押し行動」因子と名づけた。これら19項目をもって恋愛相談反応尺度とした。第一因子の内的整合性は  $\alpha = 0.781$ 、第二因子の内的整合性は  $\alpha = 0.744$ 、第三因子の内的整合性は  $\alpha = 0.692$ 、第四因子の内的整合性は  $\alpha = 0.622$ であった。

Table 1 Factor Loadings for the Inventory for Response to Consulting Love

Items	F1	F2	F3	F4	M	SD
F1 :						
Q25 付き合うべきではないと言って止めた	.718				.53	.748
Q16 相手を忘れるようにと言った	.716		-.120		.58	.824
Q23 別れるように言った	.707				.57	.822
Q17 新しい恋をするように言った	.510		.210		1.03	.966
Q45 相談者が好きな相手の良くない情報を伝えた	.506	.159			.35	.702
F2 :						
Q51 何も言わなかった		.944	.103	-.185	.36	.712
Q50 特に何もせず、ほっておいた	.108	.776			.26	.606
Q7 相談者のことを気遣って、何も言わなかった		.546			.64	.839
Q40 相談者のことは相談者で考えるように言った		.420		.385	.86	.970
Q18 異性の問題は、解決できないと言った		.391	-.128	.177	.79	.948
F3 :						
Q30 いつでも相談にのると言った	.125	-.212	.686	-.192	2.27	.904
Q29 相談者の気持ちを確かさせた		.142	.600		1.97	.913
Q21 相談者の気持ちを素直に伝えるように言った	-.132		.546	.107	2.04	.857
Q15 相談者をはげました			.501	.177	2.02	.883
Q20 今の気持ちや関係を大切にするように言った		.127	.415	.178	1.77	.939
F4 :						
Q8 相手のことをもっと受け入れるように言った	-.101			.691	1.11	.857
Q5 相手のアピールに応えるようにと言った	.142			.549	.94	.897
Q44 辛抱強くがんばるよう言った			.147	.398	1.10	.929
Q36 相談者からアピールするよう言った	.210	-.109	.192	.383	1.08	.949
Interfactor Correlation Coefficients						
F1		.464	.120	.0443	.03	2.96
F2			-.146	.011	2.87	2.81
F3				.353	10.09	3.00
F4					4.23	2.48
Factor Contribution						
Cronbach's Alpha	2.802	2.882	2.080	1.796		
	.781	.744	.692	.622		

次に、恋愛相談反応の性差を検討するために、Table 2に恋愛相談反応尺度の下位尺度得点の平均値を男女ごとに示した。t検定の結果、後押し行動因子のみ、有意な差がみられた ( $t=4.69, p<.001$ )。すなわち、女性より男性の方が、相談者の積極的な行動を後押しするような行動の使用頻度が高いことがわかった。

Table 2 Sex differences for Subscale Scores on the Inventory for Response to Consulting Love

Subscales		Men	Women	t values
別れさせ行動	M	2.79	3.19	-0.87
	SD	2.72	3.11	
シカト行動	M	3.36	2.71	1.41
	SD	3.02	2.74	
相談者尊重行動	M	10.05	10.09	-0.08
	SD	3.26	2.92	
後押し行動	M	5.46	3.67	4.69 ***
	SD	2.72	2.19	

\*\*\* $p<.001$

さらに、恋愛相談反応のジェンダー差を検討するために、Table 3に恋愛相談反応尺度の下位尺度得点とジェンダー得点との相関係数を示した。別れさせ行動は、男性性と有意な正の相関がみられた ( $r=.195, p<.01$ )。すなわち、自分が男性的だと思っているほど、別れさせ行動を頻繁に行うことがわかった。また、シカト行動は、男性性と有意な正の相関がみられた ( $r=.193, p<.05$ )。すなわち、自分が男性的だと思っているほど、シカト行動を頻繁に行うことがわかった。また、相談者尊重行動は、男性性 ( $r=.154, p<.05$ ) および女性性 ( $r=.386, p<.001$ ) と有意な正の相関がみられた。すなわち、自分が男性的あるいは女性的だと思っているほど、相談者を尊重した反応の頻度が高いことがわかった。最後に、後押し行動は、男性性 ( $r=.245, p<.001$ ) および女性性 ( $r=.251, p<.001$ ) と有意な正の相関がみられた。すなわち、自分が男性的あるいは女性的だと思っているほど、相談者の積極的な行動を後押しする反応の頻度が高いことがわかった。

Table 3 Correlation Coefficients between Subscale Scores on the Inventory for Response to Consulting Love and the Bem Sex Role Inventory

Response to Consulting Love	Gender	
	Masculinity	Femininity
別れさせ行動	.195 **	.150
シカト行動	.193 *	.050
相談者尊重行動	.154 *	.386 ***
後押し行動	.245 ***	.251 ***

\*\*\* $p<.001$ , \*\* $p<.01$ , \* $p<.05$

## 考 察

本研究の目的は、恋愛相談反応の性差およびジェンダー差を検証することであった。そのため、まず、自由記述によって、恋愛相談反応に関する項目を作成し、恋愛相談反応尺度を作成した。そ

の結果、恋愛相談反応には、「別れさせ行動」「シカト行動」「相談者尊重行動」「後押し行動」の4つの側面を有することがわかった。この4つの下位尺度を用いて、性差およびジェンダー差を検討した。t検定の結果、「後押し行動」のみ、有意な差がみられ、女性より男性の方がそのような行動頻度が高いことがわかった。すなわち、男性は女性より、恋愛について相談されると、相談者が好意を寄せている相手に対して、積極的な行動を取るよう答えることがわかった。次に、ジェンダーに関して、特に、相談者尊重行動にて、女性性との相関係数が高いことが確認された。すなわち、自分が男性的だと思っているよりも、女性的だと思っている人物は、より、相談者の感情や考えを尊重したアドバイスをするとということがわかった。加えて、後押し行動で、男性性、女性性、ともに有意な正の相関がみられた。つまり、ジェンダーを意識している人ほど、相談者に対して、積極的な行動をするようにアドバイスをすることがわかった。これらのことから、自分の性を意識している男性ほど、相談者の積極的な行動を後押しするような行動がみられることがわかった。すなわち、積極的な恋を望んでいるならば、性を意識している男性に相談すべきことが推測される。

## 謝 辞

本研究はAmourサイエンス研究プロジェクトの資金援助を受けた。本研究に関するAmourサイエンス研究プロジェクト「恋愛相談部門」の研究員は高木朋美、伊東絵美子、小賀野仁美、日下部智美、山根万記子、田結荘遥佳、馬場真美子である。

## 【引用文献】

- 東 清和 (1990) 心理的両性具有1 BSRIによる心理的両性具有の測定 早稲田大学教育学部学術研究 (教育・社会教育・教育心理・体育編), 39, 25-26.
- 東 清和 (1991) 心理的両性具有2 BSRI日本語版の検討 早稲田大学教育学部学術研究 (教育・社会教育・教育心理・体育編), 40, 61-71.
- Bem, S.L. (1974) The measurement of psychological androgyny. *Journal of Consulting and Clinical Psychology*, 42, 155-162.
- Control plus (2005) 「デート通jpみんなで書き込むデート・恋愛のクチコミサイト」 Retrieved May 18, 2010, from <http://www.date2.jp/bbs/>
- fai (n.d.) 「Love is philosophy恋愛相談恋の悩み相談室」 Retrieved May 18, 2010, from <http://lip.lovesick.jp/>
- momocafe (1999) 「ももカフェ恋愛相談室」 Retrieved May 18, 2010, from <http://www.momocafe.ouchi.to/cafe/>
- MTrading (2009) 「恋愛掲示板Rapli」 Retrieved May 18, 2010, from <http://rapli.jp/>
- 加藤 司 (2008) 対人ストレスコーピングハンドブック ナカニシヤ出版
- OKNAUTS (2006) 「みんなの恋愛相談」 Retrieved May 18, 2010, from <http://www.minren.jp/.d4d6fT2hJs79bf6032/>
- OKWave (2010a) 「質問&回答 (Q&A) コミュニティ教えて! Goo」 「恋愛相談」 Retrieved May 18, 2010, from <http://oshiete.goo.ne.jp/category/520>
- OKWave (2010b) 「質問&回答 (Q&A) コミュニティ教えて! Goo」 「恋愛相談」の「彼女にこんなお願いをされたらどう思いますか?」 Retrieved May 18, 2010, from <http://oshiete.goo.ne.jp/qa/5844930.html>
- 恋愛カウンセラー (n.d.) 「恋愛相談駆け込み寺」 Retrieved May 18, 2010, from <http://ameblo.jp/especialy/>
- 恋愛相談室LOVE CAFE (2001) 「恋愛相談室LOVE CAFE」 Retrieved May 18, 2010, from <http://lovecafe.fromc.com/>
- 読売新聞社 (n.d.) 「大手小町」「発現小町」「男女部門」「それでも私の彼女がァ!!!」 Retrieved May 12, 2008, from <http://komachi.yomiuri.co.jp/t/2010/0321/302914.htm?g=04>

【Abstract】

If you wish to be aggressive about love,  
why don't you consult a male ?

Tsukasa KATO

The author described the development of the Inventory for Response to Consulting Love, which is designed to assess responses to consulting about love affairs, and examined sex differences in levels of responses to consulting about love affairs. First, a wide range of statements relating to responses to consulting about love affairs were collected from 58 Japanese undergraduate students.

Result from exploratory factor analysis, with 183 Japanese college students, provided evidence for a 4-factor structure of the Inventory for Response to Consulting Love: pressuring to give up, disregarding, encouraging, and giving a supportive push. More men than women employed the strategies to answer that consulter should be more aggressive in matters of love affairs.

Key Word : love, consulting love, response to consulting love